

「第 62 回夏季県外史跡踏査報告」

—ハヶ岳の縄文文化・諏訪大社の自然信仰・南アルプスの天然水利用—

～諏訪の「地位」と「位置」を歴史学・地政学的に探究する～

神奈川県立麻生高校 齋藤 兆生

はじめに

令和 7 年度(2025)夏季県外史跡踏査は、8 月 17 日に下記コースと講師陣で、日帰りで実施した。

・踏査コース…JR 茅野駅東口集合(9:10)→尖石縄文考古館→諏訪大社前宮・諏訪大社本宮→昼食・自由行動(諏訪大社本宮参道・諏訪市立博物館など)→サントリー白州蒸留所(南アルプスの天然水工場・ウィスキー蒸留所)見学→新府城跡

・講師…山科 哲 氏(茅野市尖石縄文考古館 学芸員)・曾川 昌大 氏(香取神宮 権禰宜)

1 尖石縄文考古館

尖石・与助尾根遺跡【国特別史跡】は、海拔 1000m 以上のハヶ岳西麓広大な扇状地に位置する。昭和 4 年(1929)、伏見宮博英王の発掘を手伝ったことを機に、地元小学校教員だった宮坂英弐が 20 年以上に渡り調査し、のち藤森栄一ら多くの戦後考古学者の研究へと引き継がれ、「縄文集落研究の原点」とされる。尖石縄文考古館の目玉は、国宝に指定された土偶「縄文のヴィーナス」であり、山科氏の大変わかりやすい解説のもと、時間をかけて堪能することができた。同じく国宝の「仮面の女神」と併せて、縄文時代の精神文化をうかがう貴重な機会となった。

2 諏訪大社前宮

祭神の建御名方は『古事記』国譲りの段で大国主の子として登場し、その御正体(依り代)・諏訪氏出身の大祝を現人神として尊崇する。そのため本殿はなく、結界を示す四隅の御柱に囲まれた境内には東宝殿・西宝殿、幣殿・拝殿【重文】・家康が寄進した四脚門(勅使門)【重文】・硯石(磐座)などがある。幸い天候に恵まれ、四隅の御柱や周辺を散策し、清らかな清流にも触れることができた。

3 諏訪大社本宮

諏訪大社本宮は守屋山北麓に鎮座する。諏訪大明神第一の鎮座地で周辺は神原といわれ、諏訪信仰の様々な祭祀が行われた中心地存在だった。大祝の居館である神殿跡【県史跡】、拝殿・内御玉殿、十間廊、諏訪頼重供養塔(14 世紀)などがある。北西に位置する神長官守矢史料館には『紙本墨書守矢家文書』【県宝】155 点が収蔵され、諏訪信仰の歴史を残している。曾川氏の案内のもと、一同で拝殿に昇り、正式参拝をさせていただき、とても貴重な体験となった。

4 サントリー白州蒸留所(天然水工場・蒸留所・貯蔵庫)

白州は南アルプス山麓海拔 700m に位置し、冷涼な気候と花崗岩層から染み出す天然の軟水を生かした産業が盛んである。白州蒸留所は 1973 年に設立し、1977 年にはポットス

チル 24 基、マッシュタン 4 基、ステンレス製ウォッシュバック 44 基を備え、世界最大級のモルトウイスキー蒸留所となった。事前に希望した参加者は抽選による人数限定でウイスキー蒸留施設を見学し、その他の参加者は天然水工場を見学した。見学後のテイスティングでは、普段なかなか飲むことのできない貴重なウイスキーを堪能することができた。

5 新府城跡(本丸跡・新府藤武神社)

新府城【国史跡】は釜無川・塩川の侵食により形成された七里岩台地上に立地する平山城で、本曲輪・二の曲輪・三の曲輪などの各所に丸馬出し・三日月堀・枡形虎口などの防御施設の遺構を残す。天正 9 年(1581)に穴山梅雪が武田勝頼に献策し、真田昌幸が普請奉行を務めたともいわれる。同年末に勝頼は躑躅ヶ崎館を出て新府城に拠点を移し織田家の侵攻に備えたが、翌年 3 月には未完成のまま城に火をかけ逃避することになった。廃城後、甲斐に入封した平岩親吉が本曲輪に藤武神社を再建し、平成 29 年(2017)には続日本の 100 名城に選ばれている。本丸跡地の藤武神社に続く長い石段が印象的で、上り切った後の本丸跡の広さに驚くとともに、丸馬出しや三日月堀などに甲州流築城術の特徴がうかがえ、往時を偲ばせた。

おわりに

今回の踏査では、長野県諏訪地方において、縄文時代の精神文化や現代に受け継がれる信仰のあり方を現地踏査を通じて学ぶことができた。また、山梨県北杜市白州における、南アルプスの天然水利用、ウイスキー文化について学ぶことができた。日本史探究の授業に生かす資料収集ができたと思う。

本踏査に快く協力してくださった関係諸機関諸氏に、改めてこの場をお借りし感謝申し上げます。

